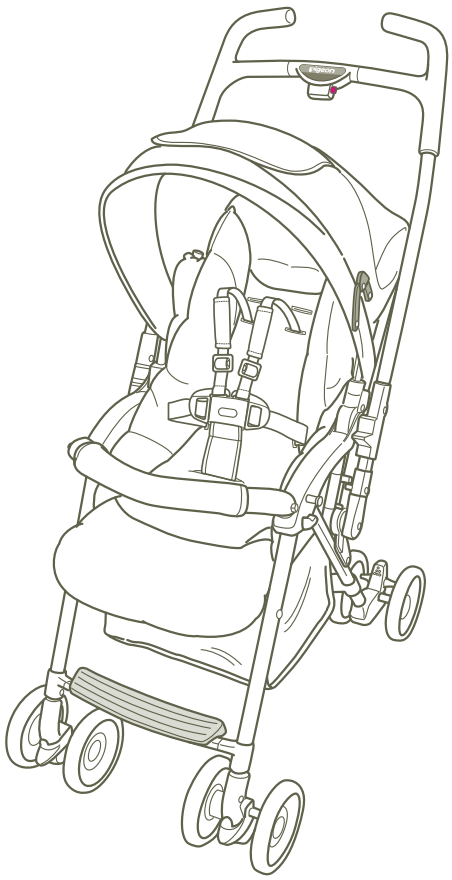
pigeon

取扱説明書 保証書付き

ピジョン Smile（スマイル）

A形ベビーカー



もくじ

ご使用の前に……2
製品特長……3
安全にお使いいただくために……3
各部の名称……8

開き方・おりたたみ方……10
キャスターの使い方（前輪のみ）……13
ストッパーの使い方（後輪のみ）……14
ハンドルの切り替え方（対面⇔背面）……15
リクライニングの使い方……16
シートベルトの取り付けと調節のしかた……17
肩ベルトの位置調節……18
シートベルト（股ベルト・腰ベルト・肩ベルト）の使い方……20
シートの取り外し方、取り付け方……21
カゴの使い方……25
足のせバーの使い方……26
フロントガードの使い方……27
幌の使い方……29
ショルダーストラップの使い方……31

日常点検について……32
保管のしかた……34
アフターサービスについて……34
SGマークの救済制度について……35
保証について……36

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、
正しくお使いください。
本書は、お読みになった後、大切に保管してください。
取り外してある部品は、本書をよく読んで取り付けてください。
本品を他のお客様にお譲りになる際は、必ず本書も
合わせてお渡しください。

安全基準A形
（1ヵ月～36ヵ月まで）

ご使用の前に・・・

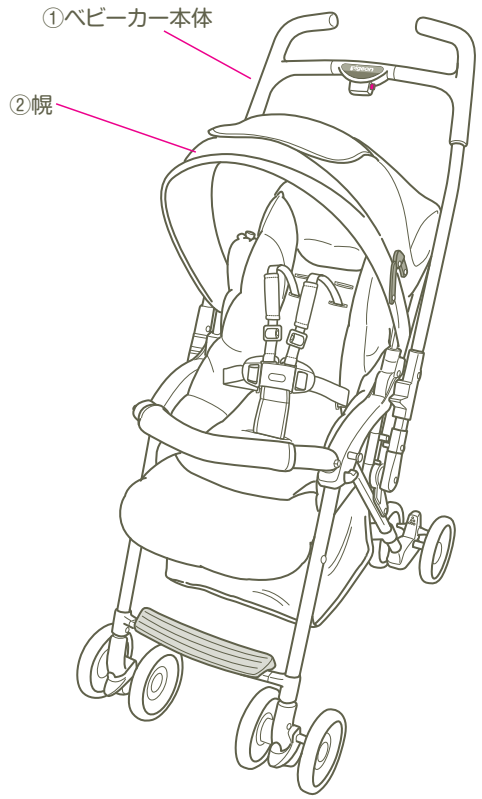
○この製品は、一般家庭で乳幼児を乗せて、外気浴、買い物などに
使用するための一人乗りベビーカー(乳母車)です。

○対象年齢:生後1ヵ月以上36ヵ月以内
(お子様の発育により個人差があります。お子様の体重の目安15kg以下)
※生後一ヵ月とは、出生時に体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上を満たし、
一ヵ月経過したお子様を示します。

○望ましい連続使用時間
寝かせた姿勢：2時間以内
座らせた姿勢：1時間以内 (お子様が一人でお座りができるまでは、
寝かせた状態でご使用ください。)

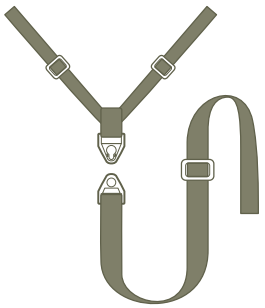
○開封後に35ページ「保証書」に次の項目を記入してください。
- シリアルNo (後タイヤの上部のフレームに貼ってあるシールに
記載されている製造番号です。)
- お客様のお名前・ご住所・電話番号
- お買い求めになった販売店名
- 購入年月日

○開封後、本体と付属品がすべて揃っていることをご確認ください。
①ベビーカー本体
②幌……本体に取り付けられています
③ショルダーストラップ
④取扱説明書 (今ご覧の冊子です)　※イラストと実際の商品は、形状など異なる場合があります。

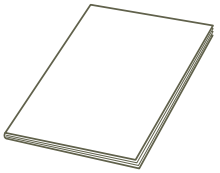


【ポリ袋入り】

③ショルダーストラップ



④取扱説明書
(今ご覧の冊子です)



製品特長

【高さを選べる、２段ハンドルでおしやすい！】

- ●背の高いパパ・ママの背筋伸ばしてスマート走行
- ●ハンドルは便利なセパレートタイプ（ハイポジション／ノーマルポジション）
- ●固定ハンドルで、高さ調整不要
- ●対面・背面でも軽快走行

生後1ヵ月～36ヵ月	両　対　面　式	新SG基準（A形）適合

安全にお使いいただくために・・・

本書には製品を使用する上でご理解いただきたい警告及び注意事項を記載しています。
記載内容は、製品を正しく安全にお使いいただき、危害や損害を事前に防止するためのものです。
記載内容を守られなかった場合は、お子様や保護者の方、および他の人々が重大な損害を受けるおそれがあります。
本書では取扱いを誤った結果、使用者、乳幼児に発生が予想される危害・損害の大きさや切迫度により項目を［警告］［注意］の2項目に分けて示しています。

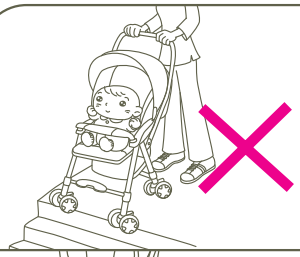
表示	表示の内容
警告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
注意	誤った取扱をすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

ご使用の際にお守りいただく内容を下記の表示マークで示しています。

表示マーク	マークの意味
⚠	警告・注意を促す内容があることを示します
✕	禁止行為を示します

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

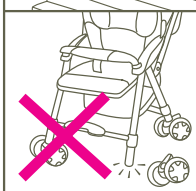
警告　**ベビーカーの転倒により乳幼児が落下したり、おりたたまれてしまい乳幼児が挟み込まれるおそれがあります。**



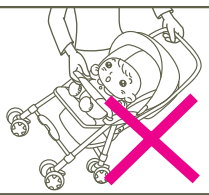
階段・エスカレーター・踏み切り等の段差があるところでは使用しないでください。

砂場・砂浜・河原・砂利道・山道などの悪路で使用しないでください。
また、ぬかるみ・雪道など滑りやすい路面でも使用しないでください。

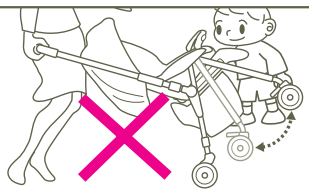
風の強い時、雷の時など悪天候の時は使用しないでください。
使用者も危害を受けるおそれがあります。



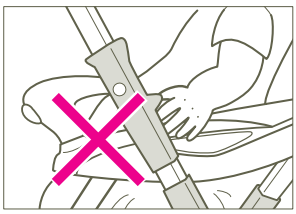
破損、異常が発生した場合は、そのまま使用せず、必ず修理を受けてください。



乳幼児を乗せたままベビーカーを持ち上げないでください。ベビーカーが破損したり、乳幼児が落下するおそれがあります。



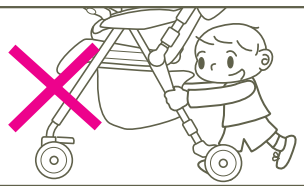
ベビーカーをおりたたむとき、開くときに、又、リクライニングの操作のとき、そばにお子様がいると、誤って指をはさむなどのケガをするおそれがあります。



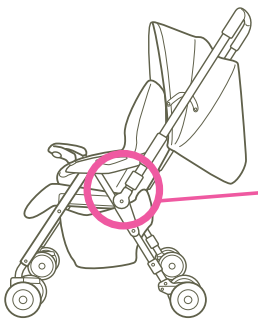
乳幼児がアームレストの周囲に手を乗せていると、ハンドル切り替え時に手や指をはさむおそれがあります。
必ず手の位置を確認してください。

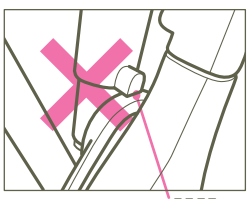
着脱シートを取り外したままお子様を乗せないでください。
すき間に手や足などをはさむおそれがあります。

ベビーカーの開閉・リクライニング操作、幌・カゴ　などの操作時には他の人に触らせないでください。
手足をはさんだりするおそれがあります。

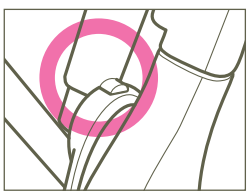


乳幼児、子供にベビーカーを操作させないでください。手足をはさんだり、転倒するなど思わぬ事故が発生するおそれがあります。





開閉ロックが
溝にはまっていない。

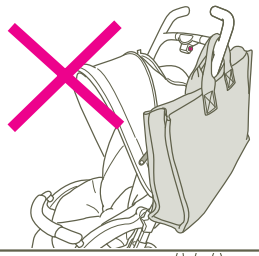


開閉ロックが
溝にはまっている。

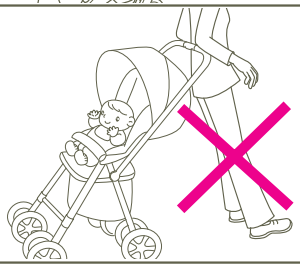
ベビーカーを開いた状態で開閉ロックが完全にかかっていることを確認してください。

警告

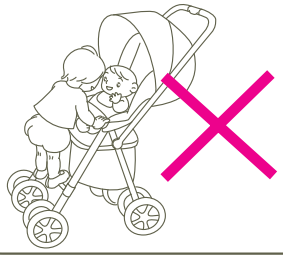
ベビーカーの転倒により
乳幼児が落下するおそれがあります。



カゴ以外の所に荷物を乗せたり、ハンドル部に荷物をつるしたりしないでください。



ベビーカーに寄りかかったり、乳幼児以外が座ったりするなど、過度の荷重をかけないでください。



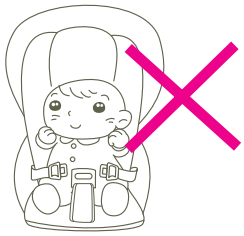
二人以上の乳幼児を乗せないでください。

乳幼児を座面以外のところに乗せないでください。

ベビーカーはゆっくり歩いて押してください。走ると車輪が振れて転倒するおそれや、乳幼児に悪影響を与えるおそれがあります。

警告

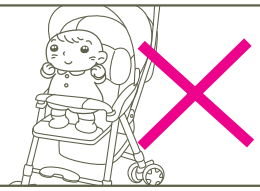
乳幼児が落下するおそれがあります。



シートを正しく取り付けた後に乳幼児を乗せてください。
間違った取り付けは乳幼児が落下するおそれがあります。

乳幼児は座面の正しい位置に座らせ、シートベルト（股ベルト、腰ベルト、肩ベルト）を必ず締めて使用してください。

バックルを締めた後、シートベルト（股ベルト、腰ベルト、肩ベルト）にゆるみが無いこと、確実に取り付けられていることを確認してから使用してください。肩ベルトが長すぎる状態で使用した場合に、首に巻きついたりするおそれがあります。

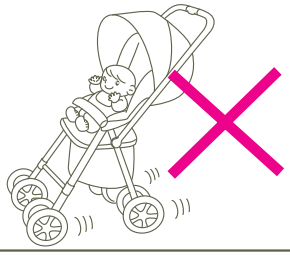


お子様は思わぬ動作をしますので、シートベルト（股ベルト、腰ベルト、肩ベルト）を締めていても乳幼児の抜け出しや立ち上がりには目を離さず十分注意してください。

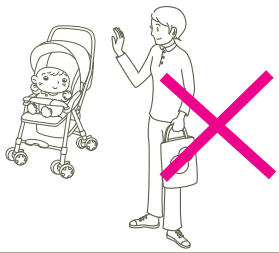
乳幼児をベビーカーの中で立たせないでください。

警告

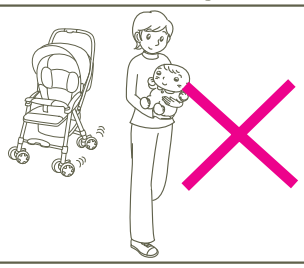
ベビーカーが動き出したり、転倒することにより乳幼児が落下するおそれがあります。



ストッパーは構造上いかなる状態でもベビーカーを静止させることのできるものではありません。
ストッパーをかけていても動き出すおそれがあります。
ストッパーを過信しないでください。

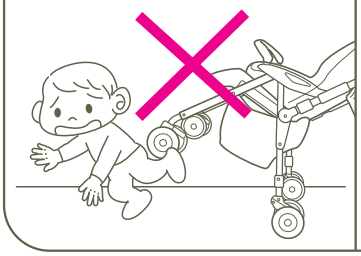


乳幼児や荷物を乗せたままベビーカーから離れないでください。
ストッパーをかけた状態でも離れないでください。



乳幼児を乗せていない状態でも
必ずストッパーはかけてください。

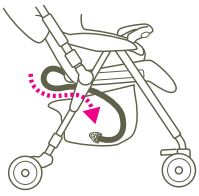
空車であっても坂の途中、車道に近い歩道上など危険な場所に放置しないでください。



お子様が乗り降りする際は、ベビーカーが不安定になり転倒するおそれがありますので、しっかりと支えてください。

警告

歩行者や障害物に引っかかり、ベビーカーが転倒するおそれがあります。

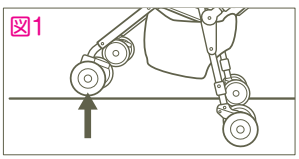


ベビーカーの走行時には、ショルダーストラップを必ずカゴに収納してください。

注意

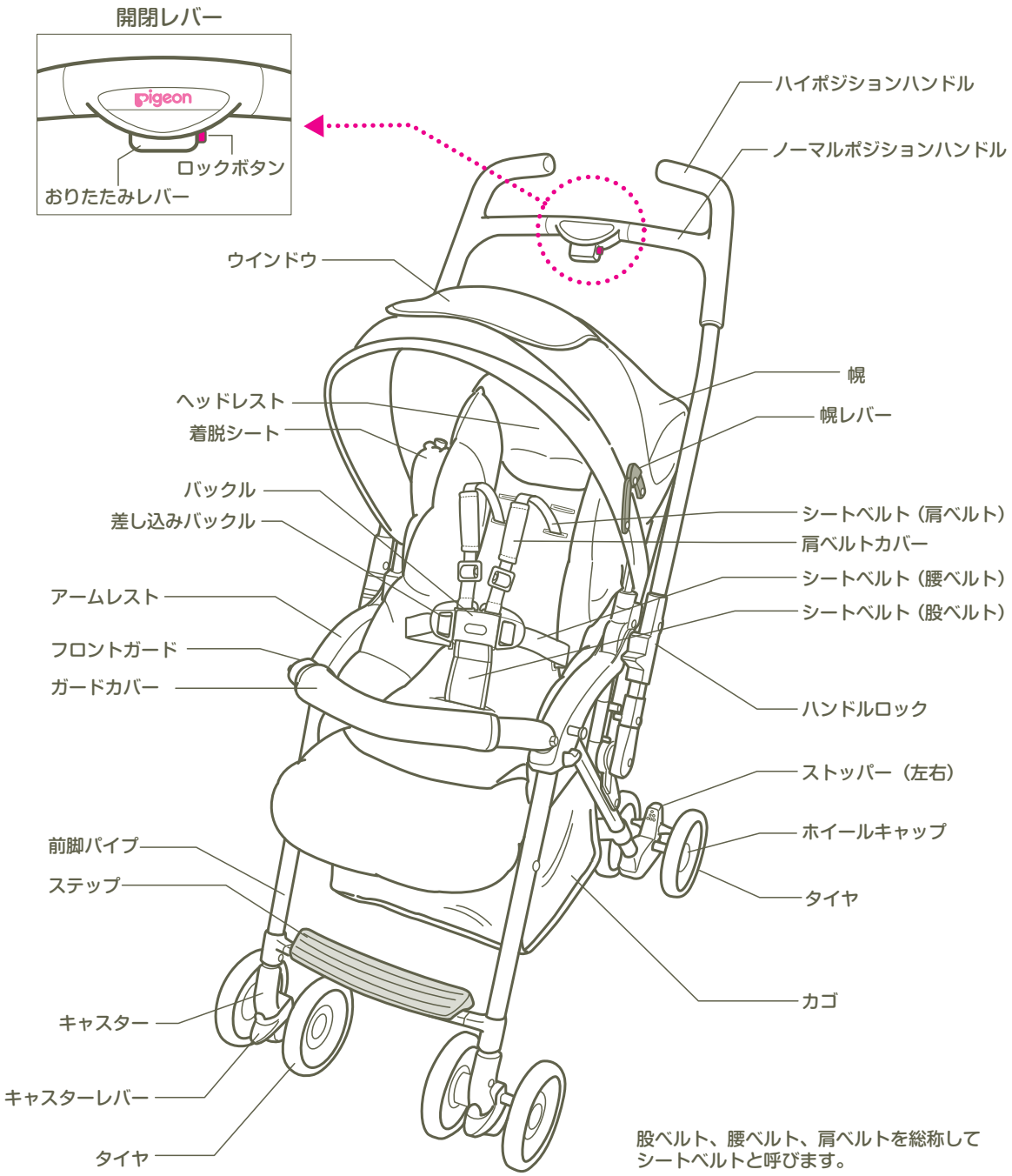
誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

○雨や水のかかる所に放置しないでください。シートの損傷やサビ、カビの発生の原因となります。
○火の近くや高温になる場所、日光が常に当たりつづける場所での放置、保管は行わないでください。フレームの故障、変形や故障の原因となります。特に夏季車中での保管にご注意ください。フレームが熱くなりヤケドのおそれがあります。
○ベビーカーの保管は直射日光を避け、湿気が少なく雨やほこりがかからない場所をお選びください。やむなく屋外で保管する場合はカバーをお掛けください。
○ベビーカーの上に荷物を重ねたり、圧力が加わる状態で保管しないでください。変形、故障のおそれがあります。
○大人が乗るなど過度の荷重をベビーカーにかけないでください。フレームの故障、変形の原因になります。
○カゴには5kg以上の荷物を乗せないでください。荷物はカゴ底に均等に荷重が加わるように乗せてください。走行が不安定になったりベビーカーが転倒するおそれがあります。
○乳幼児を乗せる以外の目的で使用しないでください。目的以外の使用は破損・故障・ケガなどのおそれがあります。
○体重15kg以上の乳幼児を乗せないでください。ベビーカーの破損・故障、乳幼児が落下するなどのおそれがあります。
○ベビーカー本体には、お子様や荷物を乗せることを目的としたボードなどは取り付けないでください。ベビーカーの破損の原因となります。
○お子様の足が車輪や地面につく場合は、使用しないでください。足をケガするおそれがあります。
○1人座りが出来ない乳幼児の場合はリクライニングを倒して寝かせた状態で使用してください。
○乳幼児の頭がヘッドレストに当たる場合は、リクライニングを一番倒した状態で使用しないでください。
○ハンドル切り替え時には、ショルダーストラップを必ずカゴに収納してください。乳幼児に無理な力がかかり、ケガや故障の原因となります。
○フロントガードには過度の力を加えたり、必要以上に曲げたりしないでください。破損、故障のおそれがあります。
○フロントガードを引っ張って使用したり、振り回したりしないでください。　破損のおそれがあります。
○使用のたびに、ネジ類や車輪のゆるみ・部品の欠損が無いか、動作に問題が無いかを確認してください。
○前輪を持ち上げたままの状態で走行しないでください。過度の荷重がベビーカーに加わり破損、故障のおそれがあります。
○段差を乗り越える場合は、前輪を浮かせて段差を乗り越えてください。前輪を浮かさず無理に段差をのり越えようとすると前輪に衝撃が加わり破損・故障の原因になります。(図1参照)



○砂場、砂浜、水溜り、河原、砂利面など不安定な路面での使用は行わないでください。破損や故障の原因になります。
○踏切や排水溝の蓋の上の走行には十分注意してください。車輪が挟まったりして転倒などの危険があります。
○夏季の炎天下では路面からの熱によりベビーカー内の温度が上昇します。長時間の使用は避けてください。
○冬季はベビーカー内の温度も下がります。乳幼児が寒くないよう保温を行ってください。
○ベビーカーを分解、改造しないでください。
○このベビーカーは、バス・電車などの乗り物内での使用を目的として設計されていません。
バスの中ではベビーカーを使用しないでください。
電車の中で、お客様の責任により使用するときは、カーブや急ブレーキなどで転倒するおそれがありますので、必ずストッパーを掛けて、十分に注意してご使用ください。
電車ご利用の際は、無理な乗り降りはしないでください。ベビーカーが自動ドアにはさまれてケガをする場合があります。
また、ホームと電車の段差、隙間には十分注意して乗降してください。

各部の名称（1）



股ベルト、腰ベルト、肩ベルトを総称して
シートベルトと呼びます。

各部の名称（2）

ハイポジションハンドル
ノーマルポジションハンドル
背もたれ部
リクライニングバックル
リクライニングストラップ
ブラケット
シリアルNo.シール
後ステー
後脚パイプ
ストッパー（左右）
後クッション（左右）

開き方・おりたたみ方

警告

○ベビーカーの開閉の操作時は、そばに人（特に小さいお子様）を近づけないで行ってください。
指や手を挟んだりするおそれがあります。

注意

○ロックボタンを押さない状態でおりたたみレバーを握らないでください。故障の原因となります。
○開くときに、引っかかりや挟み込みなどを感じたら、開くのを一旦止めて、荷物や玩具・シートベルトなどが引っかかっていないかを確認してください。無理に開くと故障のおそれがあります。

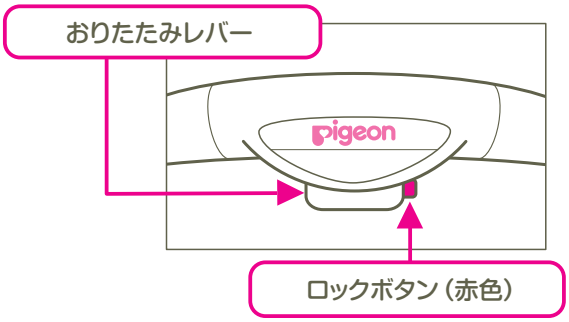
ベビーカーの開き方

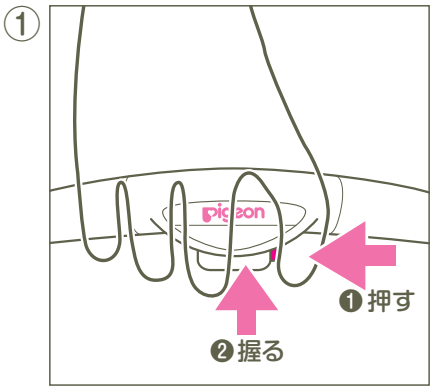
そばにお子様がいないことを確認ください。

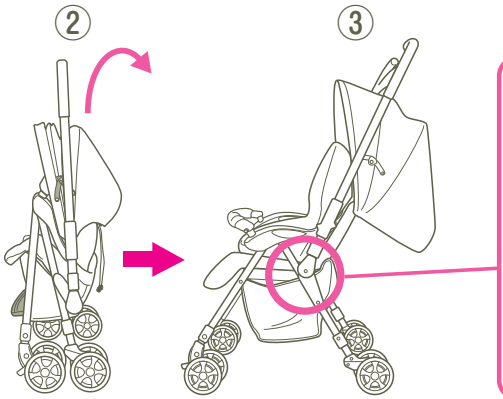
①タイヤが接地した状態でベビーカーの後ろに立ってロックボタンを押しながらおりたたみレバーを握り、ロックを解除します。

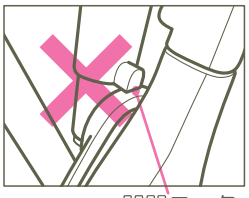
②おりたたみレバーを握ったまま、ハンドルグリップを持ち上げるようにすると開きはじめます。

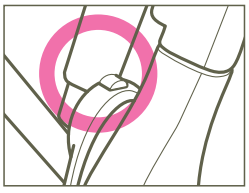
③ベビーカーが完全に開いたら、おりたたみレバーから手を離し左右の開閉ロックが完全にかかっていることを確認してください。（詳細図参照）軽くハンドルを持ち上げ動かしてベビーカーがおりたたまれないことを確認してください。











ベビーカーをおりたたむ前に下記の操作を行ってください。

（下記の操作はそれぞれの詳細操作記載のページを参照して行ってください。）

①ハンドルを背面位置に戻してください。（P15）

②キャスターを背面で使用する位置でロックしてください。（P13）

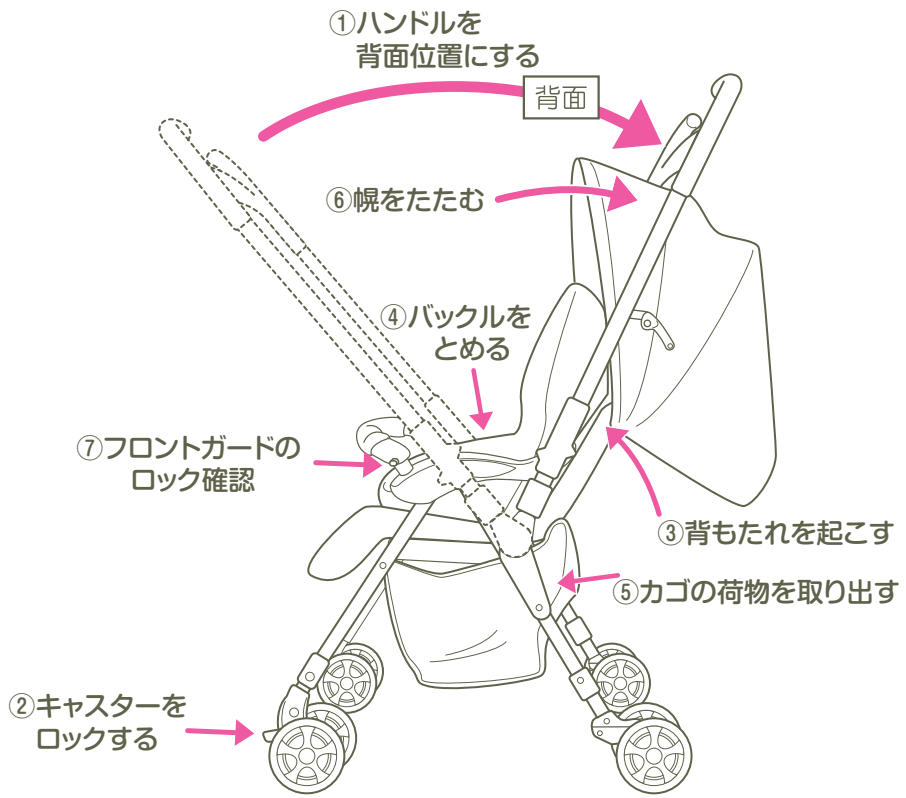
③背もたれを一番起こした位置にします。（P16）

④シートベルトのバックルを固定してください。（P20）

⑤カゴの荷物を取り出してください。（P25）

⑥幌を最後までたたみます。（P29）

⑦フロントガードがロックされていることを確認してください。（P27～28）



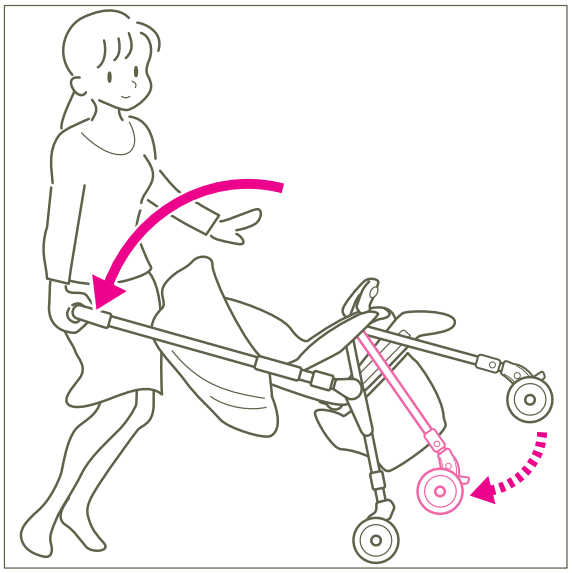
ベビーカーのおりたたみ

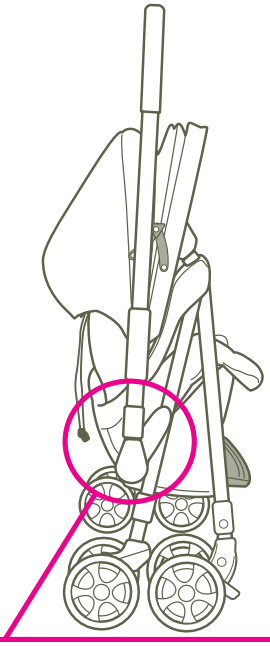
お子様がそばにいないことを確認ください。
かごに荷物が入っていないことを確認ください。

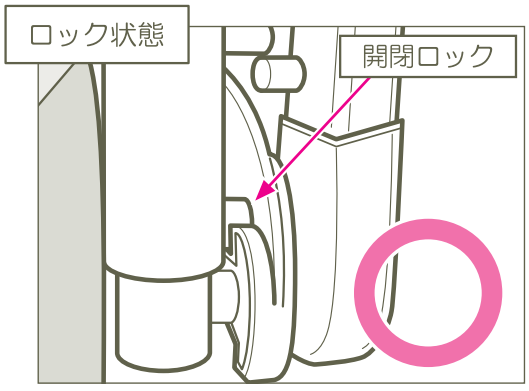
①ベビーカーの後ろに立って、ロックボタンを押しながらおりたたみレバーを握ります。
②おりたたみレバーを握ったまま、後タイヤを支点にして車体を後ろに傾けます。(矢印の方向に倒します)
③おりたたみレバーから手を離し、左右の開閉ロックが完全にかかっていることを確認してください。
(詳細図参照)

⚠ 注意

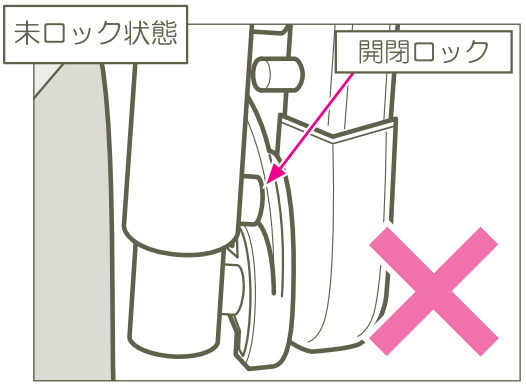
○おりたたむときに、引っかかりや挟み込みなどを感じたら、おりたたむのを一旦止めて、荷物や玩具、シートベルトなどが引っかかっていないかを確認してください。無理におりたたむと故障のおそれがあります。
○ハンドルを持ち上げて車体を浮かせた状態ではおりたたみできません。
○ハンドルに荷重をかけておりたたみはしないでください。







開閉ロックが
溝にはまっている



開閉ロックが
溝にはまっていない

キャスターの使い方（前輪のみ）

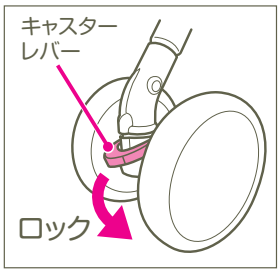
○平坦な道路で左右のキャスターのロックを解除すると車輪の向きが変わり、方向転換がスムーズにできます。
○キャスターをロックすると、直進性が高まり傾斜面や凸凹の路面で押しやすくなります。

⚠ 警告

○キャスターのロック位置を間違えて使用すると、押しにくいだけでなく故障の原因となります。取扱説明書に従って必ず正しい方向でご使用ください。
○凸凹道・坂道・傾斜地などの路面で走行する際には、キャスターを左右ともロックしてください、路面の状況によりタイヤが回転せず、ベビーカーが転倒したり、乳幼児が落下するおそれがあります。

キャスターをロックするとき

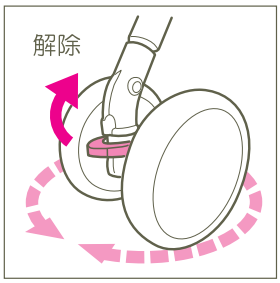
キャスターレバーを押し下げてロックします。ベビーカーを軽く前後に動かして、ロックがかかっていることを確認してください。



○凸凹道・坂道・傾斜地などの路面で走行する際には、左右ともキャスターをロックしてください。

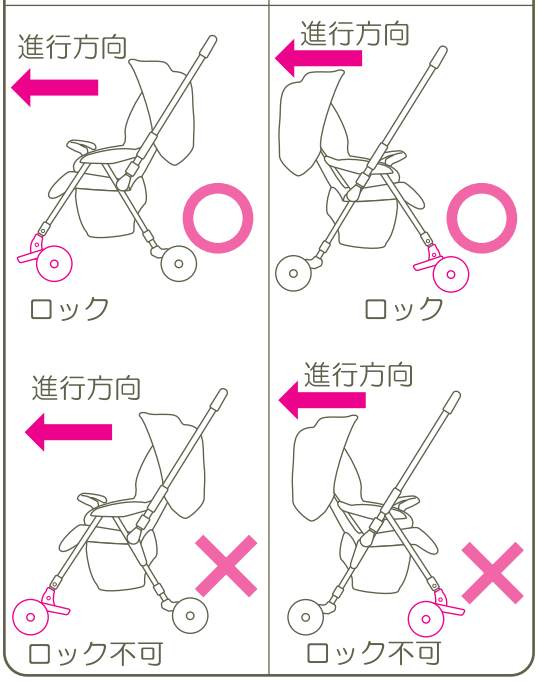
キャスターのロックを解除するとき

キャスターレバーを押し上げて解除します。



○平坦な路面で走行する際には左右ともキャスターロックを解除してください。

キャスターロックは、前後でできます。
キャスターをロックして使用する場合は、ハンドルの向きに合わせて正しいロック位置を選んでください。



ストッパーの使い方（後輪のみ）

⚠ 警告

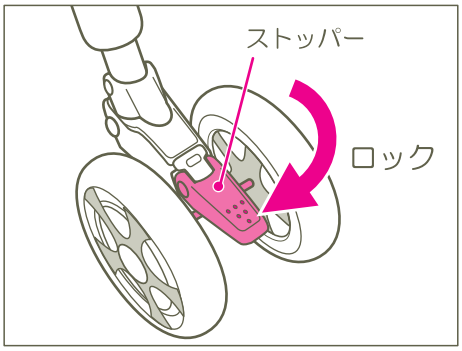
○ストッパーは構造上いかなる状態でもベビーカーを静止させることのできるものではありません。ストッパーをかけていても動き出すおそれがあります。

○乳幼児や荷物の有無に関わらず、ストッパーを過信せずに常にベビーカーから離れないようにしてください。

○ストッパーは両輪共かけるようにしてください。ベビーカーが動き出したり、転倒するおそれがあります

ストッパーをロックするとき

①左右後車輪のストッパーを押し下げてロックします。
②ベビーカーを軽く前後に動かしてストッパーのロックがかかっていることを確認してください。

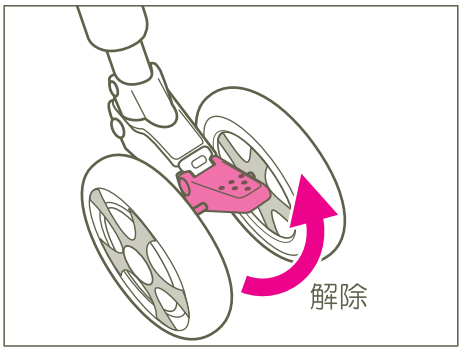


⚠ 注意

ストッパーを掛けた状態で、無理に動かしたり、体重をかけて寄りかかるような行為は破損、転倒のおそれがあります。

ストッパーのロックを解除するとき

ロックを解除するときはストッパーを押し上げてください。



⚠ 警告

ベビーカーの操作は必ず事前に平坦な路面でストッパーをロックしてから行ってください。
ロックしないと操作中にベビーカーが動き出したり、転倒することにより乳幼児が落下したりするおそれや、第三者に危害を加えるおそれがあります。

ハンドルの切り替え方（対面⇔背面）

警告

○乳幼児がアームレストの周囲に手を乗せていると、ハンドル切り替え時に手や指をはさむおそれがあります。必ず手の位置を確認してください。

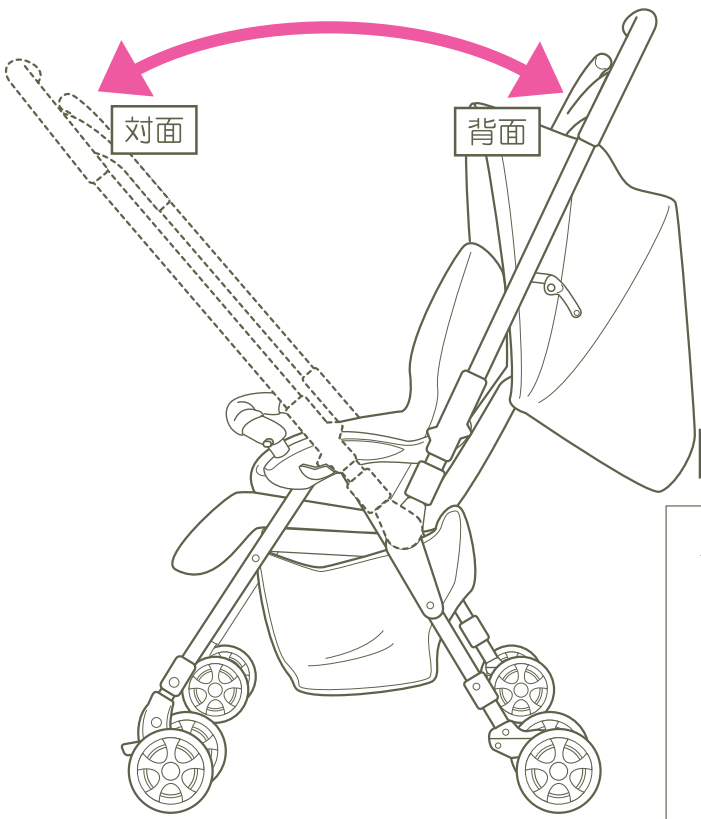
○ベビーカーを押しながらハンドルの切り替えは行わないでください。

○ハンドル切り替え時には、ショルダーストラップ（P30）の着脱バックルを外し、長ベルトを必ずカゴに収納してください。乳幼児に無理な力がかかったり、故障の原因となります。

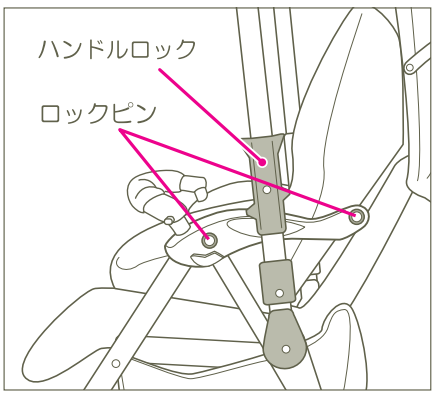
①左右にあるハンドルロックを同時に上に軽く持ち上げてロックを外します。ハンドルを動かし、向きを替えた側の左右のロックピンにハンドルロックをかけます。

②ハンドルの向きを切り替えた後に次の２点を確認してください。

・左右のロックピンにハンドルロックが確実にかかっている。
・ハンドルを前後させても動かない。



ハンドルを中間に立てた状態



※ハンドルを切り替えるとキャスターのロック方向が変わりますのでご注意ください。（P13参照）

リクライニングの使い方

⚠ 警告

○乳幼児を座らせたままリクライニング操作をする場合、背もたれを倒す前に必ず肩ベルトをゆるめてから操作してください。

⚠ 注意

○乳幼児を座面に座らせたままリクライニングを倒す操作をするときは、リクライニング角度が急に変わらないように、乳幼児の体重を手で支えながら行ってください。
○ベビーカーを押しながらリクライニングの操作をしないでください。バランスを崩すおそれがあります。
○1人座りが出来ない乳幼児の場合はリクライニングを倒して寝かせた状態で使用してください。
○乳幼児の頭がヘッドレストに当たる場合は、リクライニングを一番倒した状態で使用しないでください。
○体重が背もたれに掛かった状態で無理にリクライニングを起こさないでください。故障の原因になります。

リクライニングの倒し方

※乳幼児を座らせたままリクライニング操作をする場合、背もたれを倒す前に必ず肩ベルトをゆるめてから操作してください。

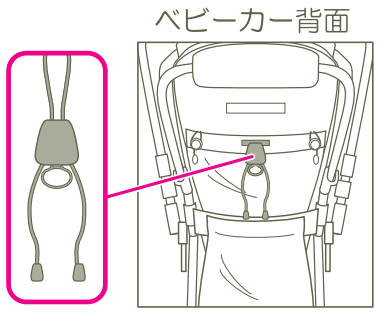
①リクライニングバックルの輪に指をかけてゆっくり引っ張ります。そのとき急にリクライニング角度が変わらないように、もう一方の手で乳幼児の体重を支えながら行ってください。

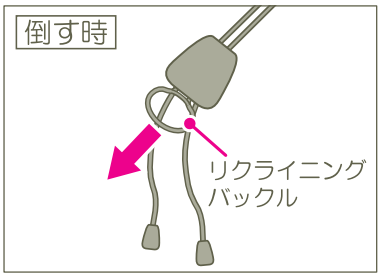
②バックルの留めた位置でリクライニングの角度を調節できます。

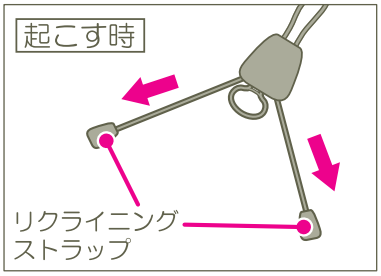
リクライニングの起こし方

①リクライニングを起こす時は乳幼児の体重が背もたれに掛からない状態でリクライニングストラップを両手で均等に矢印の方向に引っ張ってください。体重が掛かった状態では起こすことはできません。

②バックルの留めた位置でリクライニングの角度を調節できます。







シートベルトの取り付けと調節のしかた

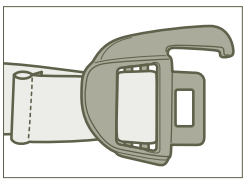
※シートベルトとは、股ベルト、腰ベルト、肩ベルトを合わせてシートベルトと呼びます。

⚠ 警告

○シートベルトの取り付け・調節は下記の手順に従って行ってください。誤った取り付けをおこなうと、ベルトやバックルが抜け、乳幼児が落下するおそれがあります。

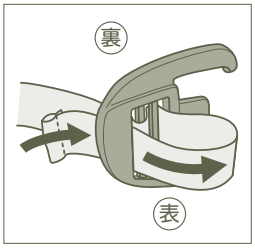
腰ベルト・股ベルト・肩ベルトの取り付け・調節のしかた

腰ベルトの調節

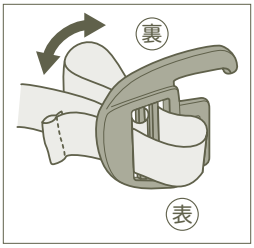


差し込みバックル

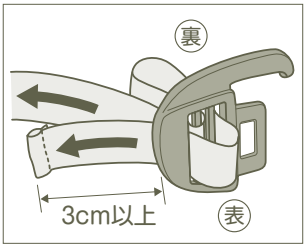
①バックル表側にある腰ベルトを図の方向へゆるめます。



②裏側のベルトをゆるめ、長さを調節します。



③表側のベルトを引っ張り、ずれないように固定します。



※腰ベルトの長さは3cm以上残るように調節してください。

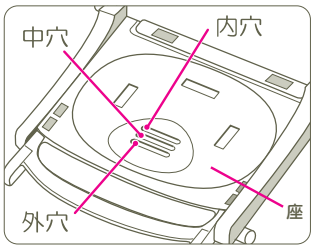
※ベルトはバックルとおなかの間に大人の指一本が入るくらいの隙間で調節します。
※腰ベルトを外すときは、腰ベルトを着脱シートから抜いた後に、ベースシート裏側の孔から腰ベルトを引き抜いてください。

股ベルトの取り付け・調節

①股ベルトを座の内穴から下側へ通します。

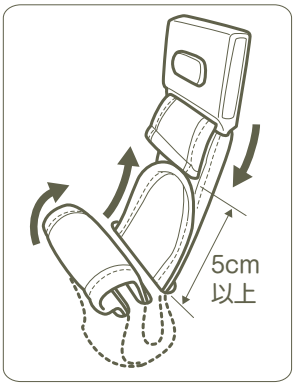
②股ベルトを外穴から上側へ通します。

③手前にきたベルトを中穴から下側へ通します。股ベルトの長さはこの状態で調節します。



④股ベルトを座の内穴から上側へ通します。この時、ベルト先端は5cm以上出るように調節してください。

⑤取り付け後ベルトを引っ張って抜けないことを確認してください。



※股ベルトからバックルは外せません。

肩ベルトの位置調節

⚠ 注意

肩ベルトはお子様のベビーカー内での立ち上がりや落下を防止するものです。
お子様の落下事故はお子様の動きが活発になる生後6ヵ月頃から1歳未満の頃に発生します。この為、ご購入時には3ヵ月頃から後のお子様に適した寸法に調整してあります。
低月齢（1ヵ月～2ヵ月頃）のお子様のご使用の場合は、下の方法でお子様に適した寸法に調整をしてください。お子様の成長は個人差がありますので月齢は目安です。

肩ベルトを上段から下段に変更する場合

肩ベルトの位置は2段階に調節できます。

図1

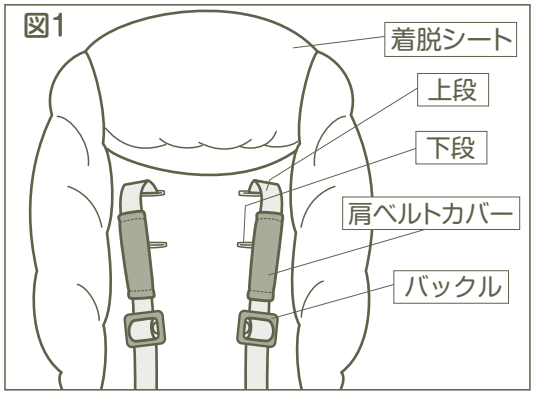


図2

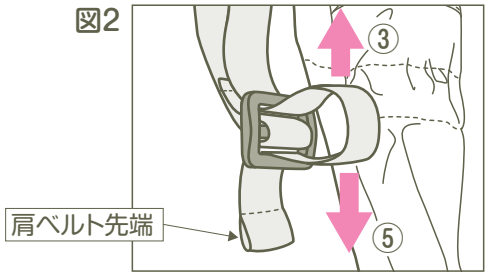
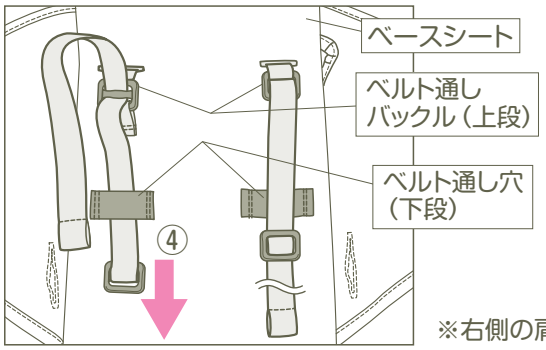


図3



※右側の肩ベルトは、変更前の図です。

①肩ベルトから肩ベルトカバーを抜いてください。
②着脱シートから肩ベルトを抜いてください。シートの取り外し方はP21を参照してください。
③図2のように肩ベルト先端をバックルから抜いてください。（③矢印の方向へ）
④図3のように肩ベルトをバックル側を下にして、ベースシートのベルト通し穴（下段）に通してください。
（この状態で肩ベルトはベースシートにある上段バックルとベルト通し穴（下段）両方に通っていることを確認してください）
⑤図2のように肩ベルト先端をバックルに通してください。（⑤矢印の方向）
⑥着脱シート下段の穴に肩ベルトを通してください。（P23参照）
⑦肩ベルトカバーを肩ベルトに取り付けてください。

※肩ベルトの穴位置は左右同じにしてください。
※着脱シートは確実に取り付けてください。

肩ベルトを下段から上段へ変更する場合

図1

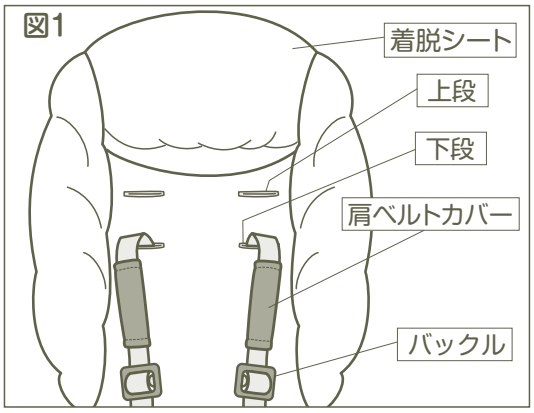


図2

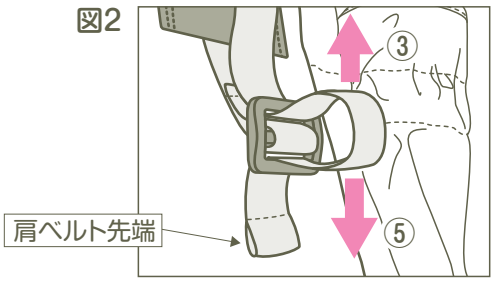
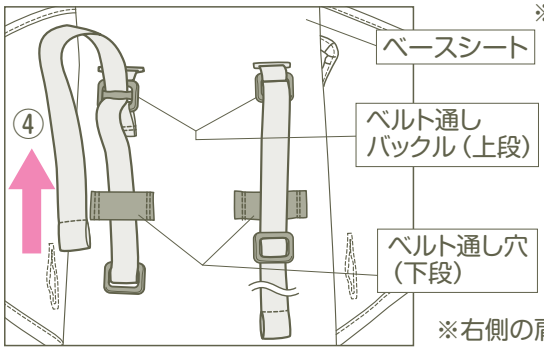


図3

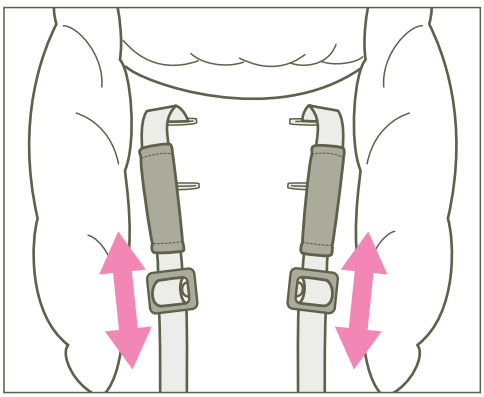


※右側の肩ベルトは、変更後の図です。

①肩ベルトから肩ベルトカバーを抜いてください。
②着脱シートから肩ベルトを抜いてください。シートの取り外し方はP21を参照してください。
③図5のように肩ベルト先端をバックルから抜いてください。（③矢印の方向へ）
④図3のように肩ベルトのバックル側をベースシートのベルト通し穴（下段）から抜いてください。（この状態で肩ベルトはベースシートにある上段バックルのみに通っていることを確認してください）
⑤図5のように肩ベルト先端をバックルに通してください。（⑤矢印の方向）
⑥着脱シート上段の穴に肩ベルトを通してください。（P23参照）
⑦肩ベルトカバーを肩ベルトに取り付けてください。

※肩ベルトの穴位置は左右同じにしてください。
※着脱シートは確実に取り付けてください。

肩ベルトの長さ調節



肩ベルトバックルの上下の移動で、長さを調節します。

※肩ベルトバックルの位置は左右同じにしてください。

シートベルト（股ベルト・腰ベルト・肩ベルト）の使い方

⚠ 警告

○乳幼児を乗せたときは必ずシートベルトを締めてください。バックルを掛けずに乗せたり、シートベルトの締めかたが不完全ですと乳幼児が落下するおそれがあります。
○シートベルトは乳幼児の体に合わせて調節を行って、ねじれやゆるみが無いように締めてください。
○シートベルトを締めていても、乳幼児の抜け出しや、立ち上がりには十分に注意してください。個人差がありますので、シートベルトはいかなる場合でも抜け出しや立ち上がりを防止できるものではありません。常に目を離さないようにご注意ください。
○バックルボタンやベルトを乳幼児やお子様が操作しないように注意してください。
○洗濯などでシートベルトを取り外した場合は、取扱説明書に従って正しくセットしてください。
取り付け方が不完全な場合、使用中にベルトやバックルが抜けるおそれがあります。
取り付け後に引っ張って抜けないことを確認してください。
○肩ベルトカバーを必ず着用してください。
○肩ベルトは左右を交差させないでください。乳幼児の首を圧迫するおそれがあります。

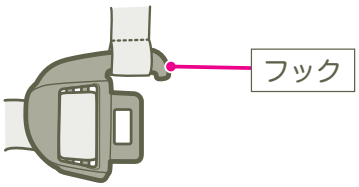
シートベルトの締め方、外し方

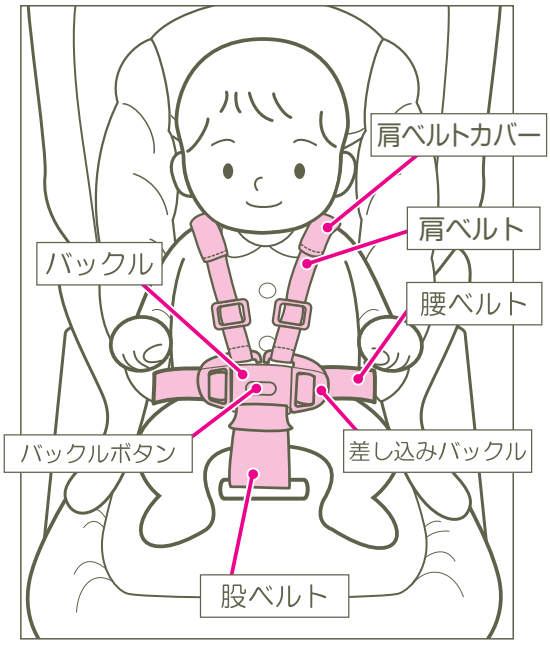
シートベルトを締めるとき

①肩ベルトを差込みバックルのフックに取付けます。

②乳幼児を座面にしっかりと座らせ、股の間から股ベルトを通します。
差し込みバックルをバックルに「カチッ!」と音がするまでしっかり差し込みます。

③腰ベルト、股ベルトを引っ張って、外れないことを確認してください。





シートベルトを外すとき

股ベルトのバックルボタンを押し、差込バックルを、バックルから外してください。
バックルボタンは中央部ではなく、差し込みバックルを外す側を押してください。中央部を押した場合は、左右の差し込みバックルが外れない場合があります。

シートの取り外し方、取り付け方

⚠ 警告

○やぶれ・すり切れ・ほつれなどの発生したシートやベルトはそのまま使用しないでください。縫製品本来の機能を果たせないばかりでなく、乳幼児に危害がおよぶ可能性があります。

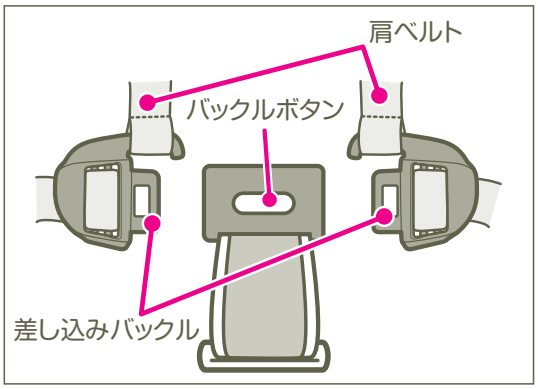
○シートの取り付けは本書の指示に従い、確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、乳幼児が落下したりシートやベルトが損傷するおそれがあります。

○シートを外したまま乳幼児を乗せないでください。手足を挟んだりケガをするおそれがあります。

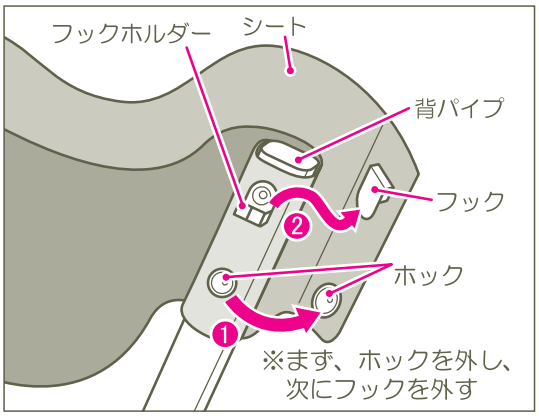
取り外し方

①あらかじめ30ページの「幌の取り外し方」に従って、幌を取り外します。

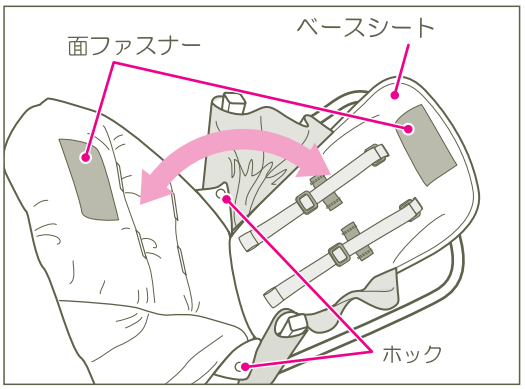
②バックルボタンを押して差し込みバックルを外し、肩ベルトも外します。



③背パイプ上部左右のホックを外し、次にシートを上に持ち上げてフックホルダーから左右のフックを抜きます。

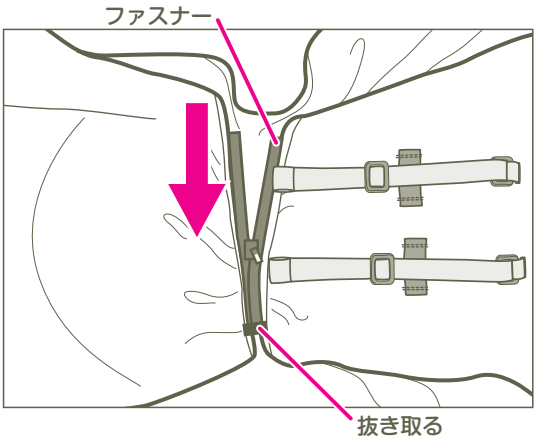


④ベースシートに止まっている面ファスナーをはずしてシートをめくり、次にベースシートにとめてある左右のホックを外します。

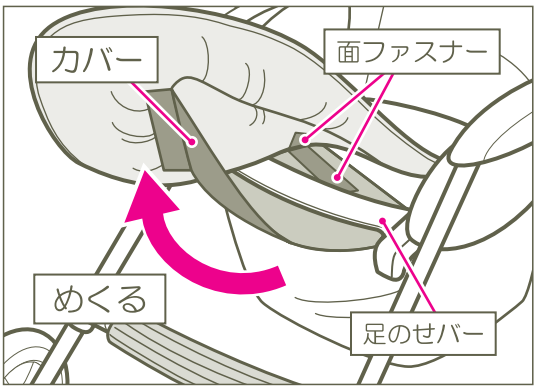


⑤着脱シートから、肩ベルトを抜き取ります。

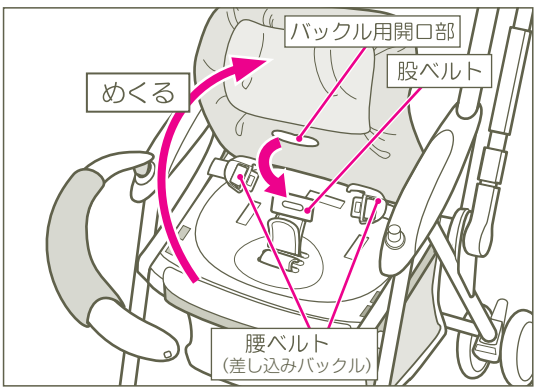
⑥ベースシートに固定されているファスナーを外して抜き取ります。



⑦シート前側をめくり、足のせバーを覆っているカバーの面ファスナーを外します。

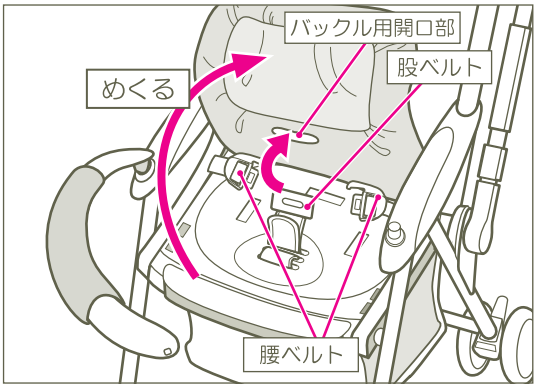


⑧シートの前側をめくり、隙間から股ベルトとバックルを抜き取ります。同様に裏面から腰ベルト・差し込みバックルを抜き取ります。



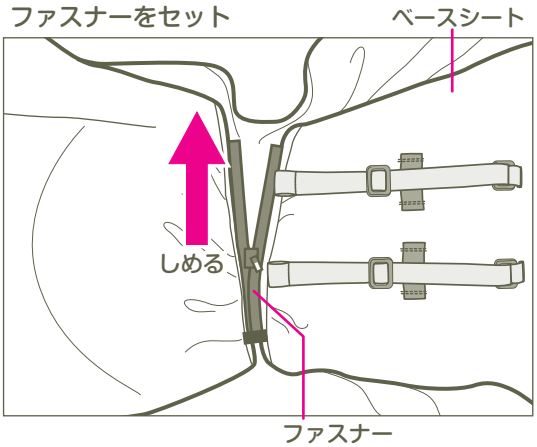
取り付け方

①シートの裏表を確かめバックルと股ベルトをバックル用開口部に通します。（ボタンがあるほうが表側になります）

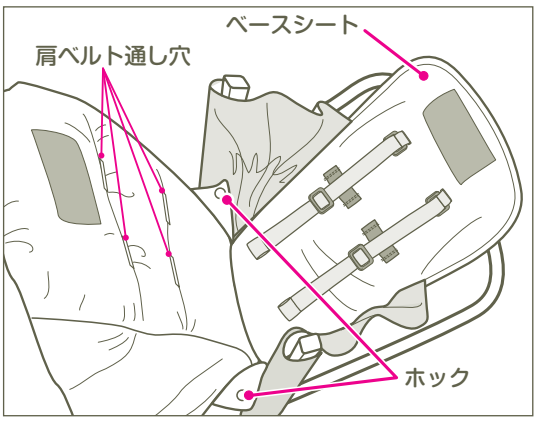


②同様に腰ベルトと差し込みバックルをシート左右の開口部に通します。腰ベルトがねじれない様に向きを確認します。

③裏面のファスナーをベースシートのファスナーにセットしてしめます。

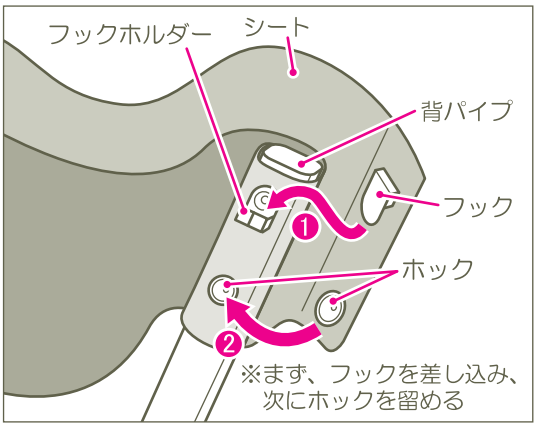


④ベースシートの左右２ヵ所にシートのホックをとめます。

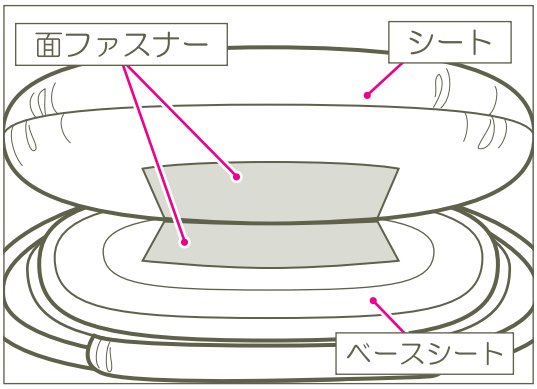


⑤肩ベルトを着脱シートの肩ベルト通し穴から通します。
肩ベルトはご使用になるお子様の肩の高さに合わせて左右同じ高さの穴に通してください。

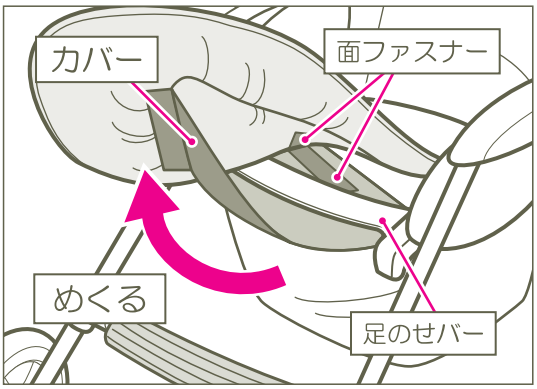
⑥背パイプ上部にシートを被せ背パイプの内側に回し、フックホルダーにフックを上から差し込んだ後ホックを固定します。(左右2ヵ所)

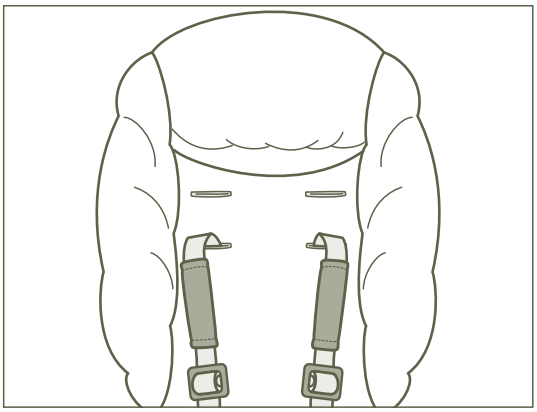


⑦シート背面の面ファスナーをベースシートに位置を合せて取り付けます。



⑧シート前側をめくり足のせバーを覆うカバーを面ファスナーで取り付けます。





ベルトのバックルは20ページの取り付けのしかたをごらんの上、正しく取り付けてください。

取付けた後でシートを軽く手で動かして、フック・ホック・ベルトが外れないかを確認してください。

カゴの使い方

⚠ 警告

○5kg以上の荷物は乗せないでください。カゴが破損するおそれがあります。また、ベビーカーがバランスを崩して転倒し、乳幼児が落下するおそれがあります。

⚠ 注意

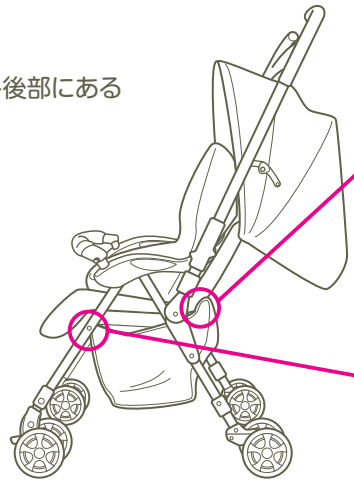
○割れ物、ビン類は入れないでください。走行中の衝撃などで破損するおそれがあります。
○角のとがったものやカゴからはみ出すものは入れないでください。
カゴの変形、破れの原因になります。
○カゴは洗濯機での洗濯はできません。お手入れの方法はP32を参照してください。

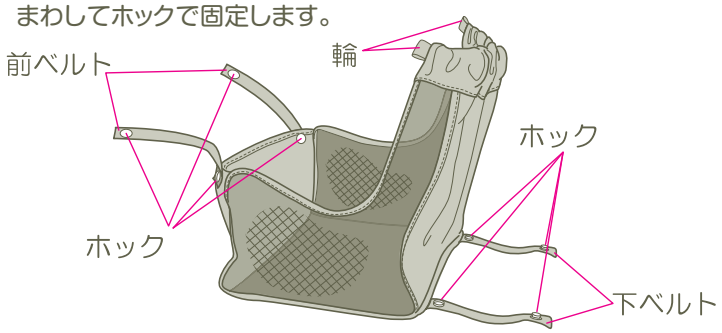
カゴの取り付け方・外し方

＜後ベルト取り付け＞
後ベルトの輪をアームレスト後部にある
フック（左右）に通します。

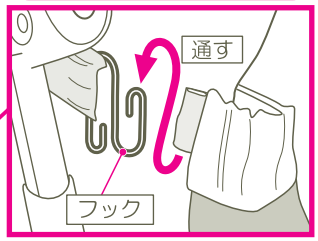
＜前ベルト取り付け＞
座面と前フレームとの間に
前ベルト（左右）をまわして
ホックを固定します。

＜下ベルト取り付け＞
後輪上方のフレームに下ベルト（左右）を
まわしてホックで固定します。

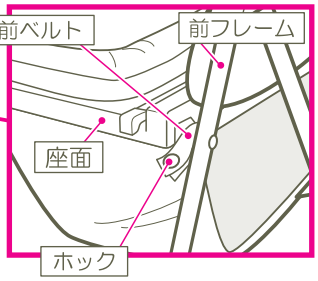




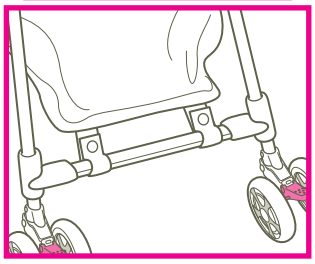
後ベルト取り付け方



前ベルト取り付け方



下ベルト取り付け方



※取り外しは逆の手順で行います。

足のせバーの使い方

乳幼児が寝た際に、足のせバーを使用することで足を伸ばす姿勢をとることができます。

⚠ 警告

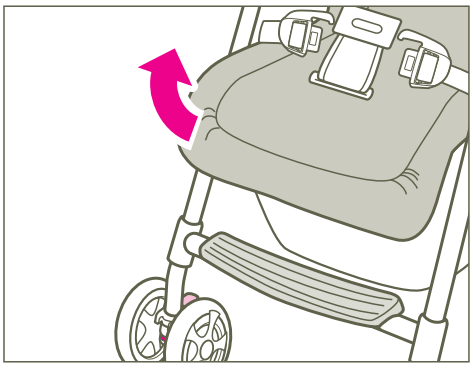
○乳幼児を足のせバーの上に立たせないでください。
落下するおそれがあります。

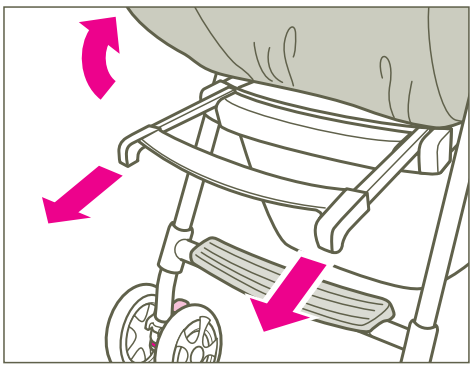
⚠ 注意

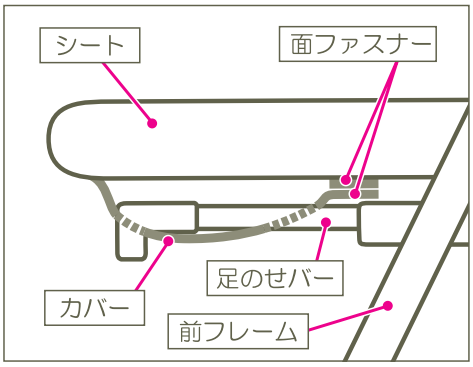
○足のせバーに重いものを乗せたり、掛けたりしないでください。
故障の原因になります。

座面上のシートを持ち上げて、座面に収納されている足のせバーを、バーの両側を持って、引き出します。最後まで引き出したらシートを元に戻します。

収納するときは、足のせバーを座面の中に押し込んでください。







フロントガードの使い方

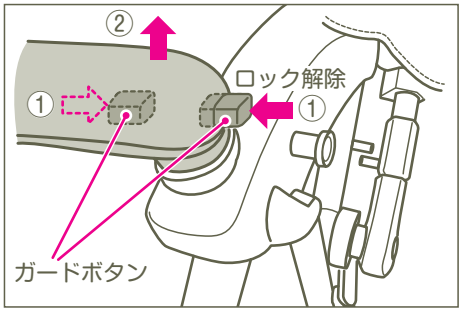
警告

○フロントガードは乳幼児の立ち上がりやズレ落ち、抜け出しを防ぐものではありません。乳幼児を乗せる際には必ずシートベルトを締めてください。
○ガードボタンは乳幼児に操作させないでください。特に乗車中はバランスが崩れ、ベビーカーが転倒したり、乳幼児が落下するおそれがあります。
○乳幼児の乗せ降ろしはフロントガードを開いて行ってください。手足や服などが引っかかり、ベビーカーが転倒したり、乳幼児が落下するおそれがあります。
○フロントガードを持ってベビーカーを持ち運ばないでください。フロントガードの破損、またはフロントガードが抜け落ちるおそれがあります。

注意

○フロントガードに過度の力を加えたり、必要以上に曲げたり、過度の衝撃を与えたりしないでください。
○フロントガードの片側を外した状態でフロントガードを引っ張って使用したり、振り回したり、しないでください。破損やケガのおそれがあります。
○乳幼児の乗せ降ろしを行う際は、左右のどちらかを解除し、フロントガードを開いて行うと便利です。

フロントガードの取り外し方



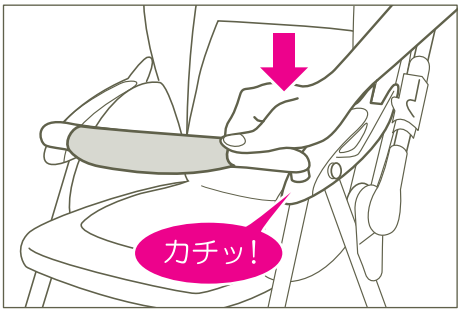
①内側・外側両方のガードボタンを矢印方向に同時に押し込みます。
②フロントガードのロックが解除され上に持ち上がります。

乳幼児の乗せ降ろしを行う際は左右どちらかのロックを解除し、フロントガードを開いてから行います。

フロントガードの取り付け方

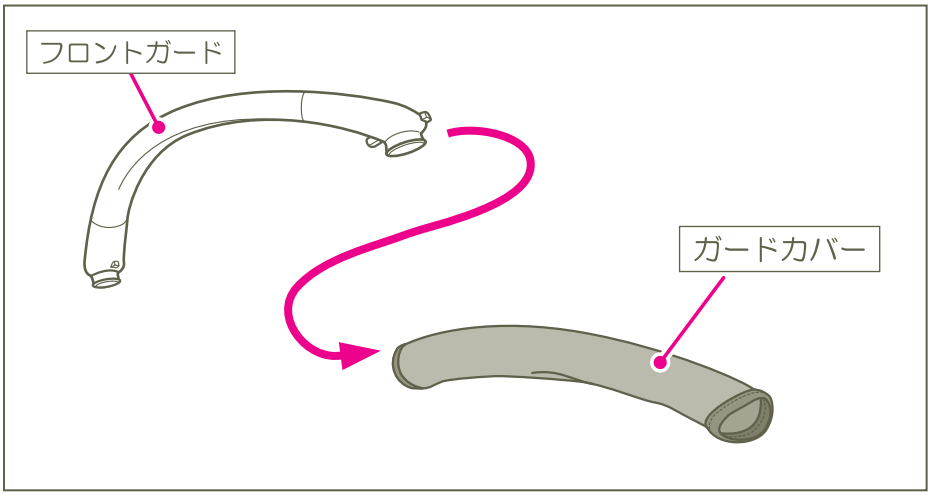
フロントガードをアームレストの突起に合わせて上から押し込んでください。「カチッ」と音がしたら取り付け完了です。

取り付け後にフロントガードを軽く引っ張って、ロックが外れないことを確認してください。



ガードカバーの外し方

ガードカバーは筒状になっていますので、フロントガードの左右どちらかから抜いてください。



※ベビーカーをご使用の際は、必ずフロントカバーを取り付けてください。

幌の使い方

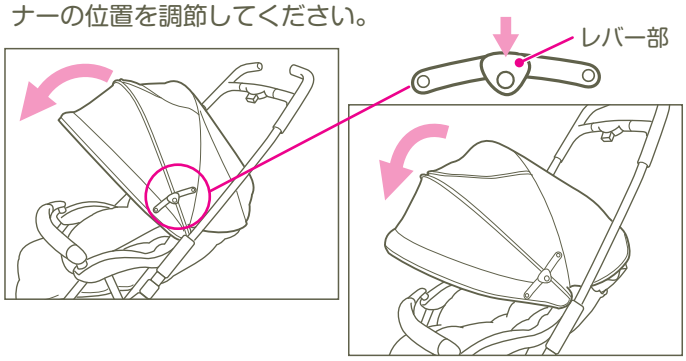
注意

○ベビーカーのおりたたみは必ず幌を収納してから行ってください。
開いたまま無理に折り畳むと、幌が破損するおそれがあります。
○幌レバーの開閉時には指はさみにご注意ください。
○片側だけ抜いた状態で無理にひっぱったり、曲げたりしないでください。
○幌の上に荷物を置いたり、荷重を掛けたりしないでください。

幌の使い方

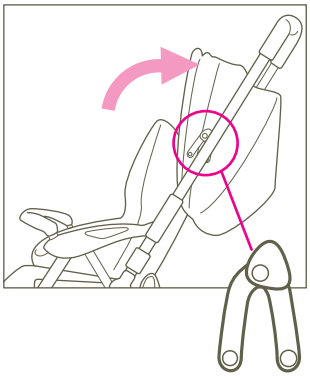
使用するとき

幌を開くときは、幌を前に広げ、左右の幌レバーのレバー部を押し下げます。
進行前方から日差しが入る場合は、幌を前方に倒してご使用いただけます。
その際幌の位置にあわせて背もたれ部の面ファスナーの位置を調節してください。



収納するとき

前方にある場合は幌をハンドル側に戻します。左右の幌レバーのレバー部を引き上げ、幌を後側にまとめます。

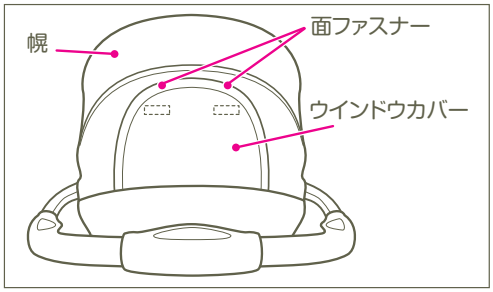


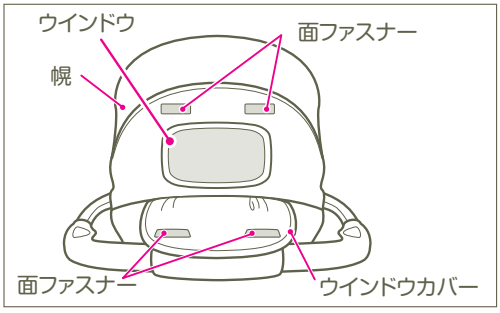
ウインドウの使い方

ウインドウはファスナーを開くと風が通り、快適にご使用いただけます。
背面位置でご使用の際は、シート上の乳幼児の様子を見ることができます。

ウインドウの開き方

窓カバーの面ファスナーを外します。



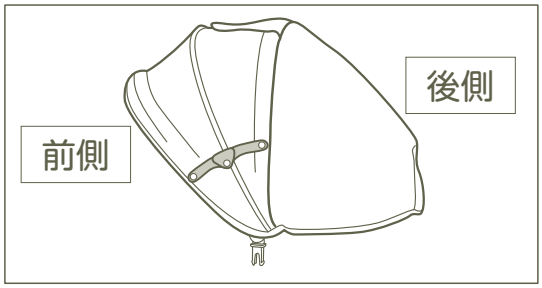


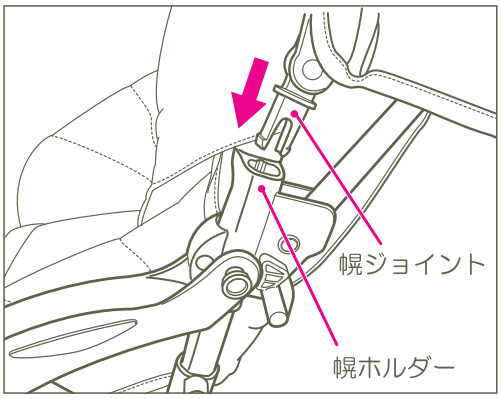
閉じるときは、窓カバーの面ファスナーの位置を幌の面ファスナーの位置にあわせ閉じます。

幌の取り付け、取り外し方

取り付け方

①幌の前後の向きを確認して左右の幌ジョイントを幌ホルダーの孔に最後までしっかり差し込みます。

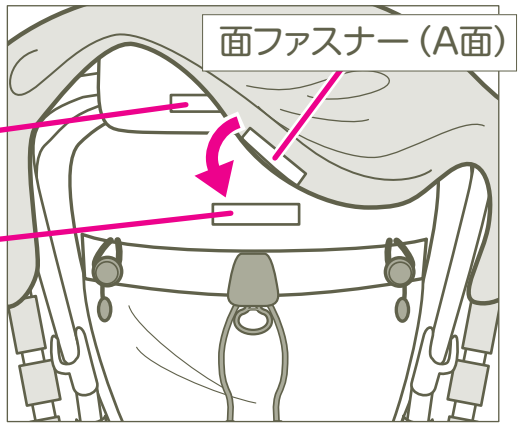




②背もたれの面ファスナーに幌の面ファスナーを取り付けます。

幌を前方に倒すとき

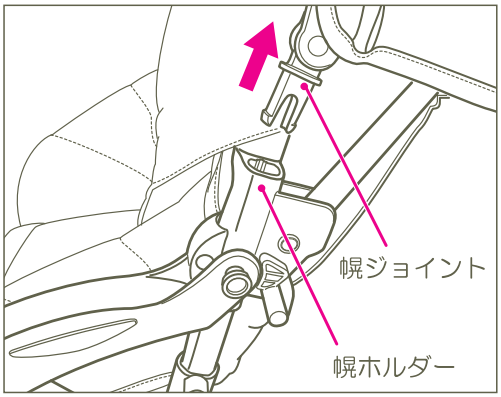
前方が見える位置、畳んでいるとき



取り外し方

①背もたれの面ファスナーから幌の面ファスナーを取り外します。

②幌を手で持って幌ホルダーから引き抜きます。左右両方行います。



ショルダーストラップの使い方

警告

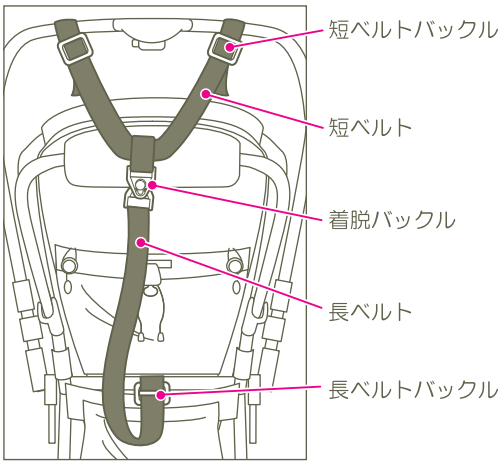
○ベビーカーの走行時は必ず座面下部のカゴに収納してください。
歩行者や障害物にひっかかり、転倒するおそれがあります。

注意

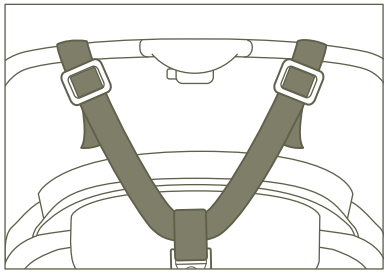
○狭い所や混雑時は、背負ったベビーカーが他の人の迷惑になったり、危害を与えないようご注意ください。
○ハンドルの切り替え時には、ショルダーストラップを必ずカゴに収納してください。
○車輪が汚れたままベビーカーを背負いますと、衣類などが汚れるおそれがあります。

ショルダーストラップを使って肩から掛けると、持ち運びや移動が楽にできます。

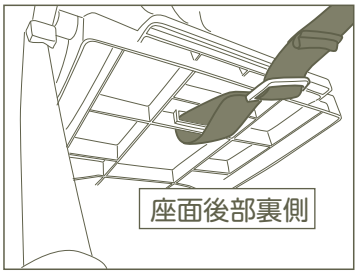
ベビーカーを開いて図の位置に取り付けます。



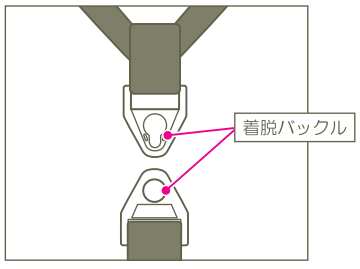
1.短ベルト2ヵ所のバックルを、左右均等にハンドルに取り付けます。



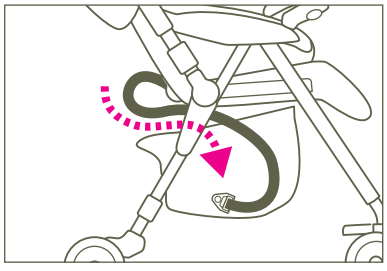
2.長ベルトを座面後部の穴を通し、バックルで長さを調節し固定します。



3.走行時およびハンドル対面時は、着脱バックル部から下の長ベルトを外してください。



4.外した長ベルトはカゴの中に収納します。



日常点検について

○結合部品のゆるみ、部品の欠損及び動作不良などの異常がないか適時点検してください。
○危険ですから、むやみに改造や分解はしないでください。
○お手入れの際に取り外した製品は、本書をよくお読み正しく取り付けてください。
取り外したままですとお子様が危険です。

清掃について

快適に使用していただくために、汚れたら洗濯してください。

⚠ 注意

※製品の特性上、ご使用方法によっては若干色落ち・色あせすることがあります。
※一般の洗濯用洗剤が使用できますが、蛍光漂白剤入りの洗剤の使用は避けてください。
事前に洗剤の注意書きもお読みください。
※ベースシートは洗濯できません。布などで汚れを拭き取るだけにしてください。濡らしてしまった場合は十分に乾燥させ、中の水分を取り除いてください。
※保管の状態により、着脱シートにカビが発生することがあります。
こまめに洗濯をし、清潔に保つように心がけてください。

●着脱シート、フロントガードカバー、肩ベルトカバー

丸洗いできますが、洗濯機は使わず、下記の方法に従って洗濯してください。

洗濯機の使用はできません。液温は30℃以下としてやさしく手洗いしてください。

漂白剤や漂白剤入りの洗剤は使用しないでください。

アイロンがけは行わないでください。

ドライクリーニングは行わないでください。

洗濯後は十分にすすぎ、かるく脱水します。絞らないでください。

洗濯したものを干す時は、形を整えて日陰に平干ししてください。乾燥機は使用しないでください。

●幌、カゴ、股ベルト、腰ベルト、肩ベルト

丸洗いはできません。下記の方法に従って洗浄を行ってください。
○液中につけず、30℃以下の液温の洗剤をつけたブラシやスポンジなどを使用して、汚れを拭き取ってください。
○シート差込部やガード差込口、幌の差込口などで怪我をしないように注意してください。
○洗剤を使用して汚れをとったあとは、水を含ませた布やスポンジで洗剤成分が残らないように数回拭き取ってください。
○乾かすときは、乾いた布で水分を拭き取り、陰干ししてください。

●ベースシート

洗濯できません。よく絞った布などで汚れを拭き取るだけにしてください。

車体の清掃について

⚠ 注意

○定期的に清掃を行ってください。車体に泥やホコリなどがついたままで使用しないでください。
○車体の清掃には中性洗剤以外は使用しないでください。部品の変質、劣化、退色の原因となります。

使用前にタイヤやアルミフレームについた、泥、ホコリなどはよく絞った濡れタオルなどを使ってきれいに拭き取ってください。
汚れがひどい時は、薄めた中性洗剤を含んだ布で拭いてください。中性洗剤が残らないように最後によく絞った濡れタオルなどを使ってきれいに拭き取ってください。

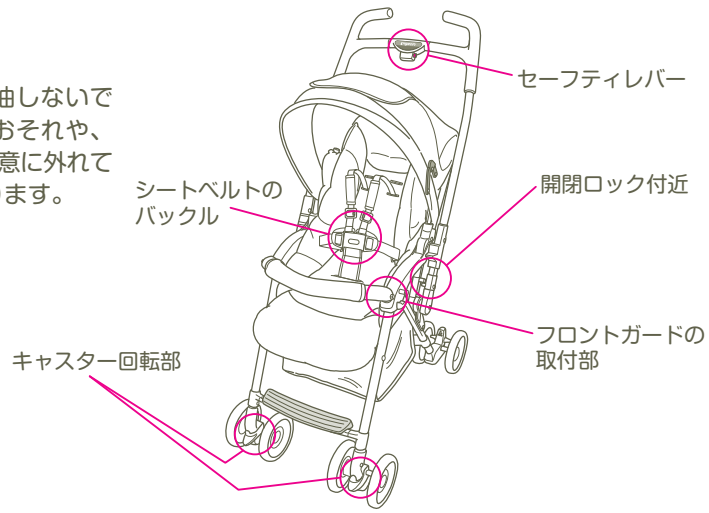
注油について

きしみなどの異音が発生したり、動作が滑らかでなくなり注油が必要と思われる場合は、市販の潤滑油（シリコーン系）を少量注油してください。
注油量が多すぎると、ホコリが付着して逆に機能を低下させるおそれがあります。

⚠ 警告

○シートベルトのバックル、フロントガードの取付部、レバー、開閉ロック付近、キャスター回転部、タイヤ取付部には注油しないでください。動作不良や事故のおそれがあります。

右図に示す個所には絶対に注油しないでください。動作不良を起こすおそれや、バックルやフロントガードが不意に外れて乳幼児が落下するおそれがあります。



⚠ 注意

○乳幼児が触れたりなめたりするおそれのある縫製品やフロントガード、アームレストには油がつかないように注意してください。万一ついてしまった場合は油をしっかり拭き取ってから使用してください。

廃棄方法について

お住まいの各自治体の廃棄方法に従って処分してください。
（環境保護のため、適正な廃棄をせずに放置することはおやめください。）

保管のしかた

注意

○火の近くや高温になる場所、日光が常に当たりつづける場所、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所での放置、保管は行わないでください。故障・変形・カビ発生の原因となります。
○ベビーカーの上に荷物を重ねたり、圧力が加わる状態で保管しないでください。故障・変形の原因となります。
○やむなく屋外で保管する場合はカバーをおかけください。

アフターサービスについて

ご使用中に故障などが発生したり、点検中に破損などを発見した場合、部品の交換、修理の必要が生じた場合、及びその他異常を感じた場合は、直ちにご使用を中止し、製品名、後ステーの上側に貼付のシールに記載されているシリアル番号をご確認の上、お買い上げの販売店または、当社修理センターまでご連絡ください。そのまま使用しますと、重大な事故につながるおそれがあります。

保証期間中（お買い上げ日より1年間）に部品の欠品、不良加工など当社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きにしたがった正常な使用状態で故障した場合には、保証規定に基づき無償修理いたします。
保証期間を終了した場合の修理、部品販売については有償にて承ります。
ご購入日より1年以上経過した製品の修理においては製品修理箇所以外の品質保証はいたしかねます。修理箇所の保証期間は3ヵ月です。
製品のご購入後3年間は修理を申し受けますが、修理必要部品の在庫がなくなった場合、修理が出来ないこともあります。（部品の保有期間は、製造中止後3年間です。ただし、3年以内であっても部品の色、柄などについては、ご希望に添えない場合があります。）

○ご使用中にベビーカーが破損したり次のような場合には、ただちに使用を中止してください。

- ●タイヤが磨耗により残りが5mm程度の厚さまで減ったとき。
  車輪は消耗品ですので交換してください。
  交換は有償となります。
- ●ネジ・リベットや車輪の緩み、シート・ベルトの破れ・切れ・ほつれが生じた時。
- ●あきらかに操作性に異常を感じた時や、走行に障害を感じた時。
- ●車体が変形したり、パイプの曲がりや損傷が生じた時。
- ●フロントガードや幌など、取り外し可能な付属部品を紛失した時。
- ●プラスチック部品や金属部品のひび割れや変形・破損が生じた時。

部品の交換、修理が必要な箇所を発見した時はただちに使用を中止して、当社修理センターまでご連絡ください。（裏表紙参照）
○本製品の修理や部品販売の際は、修理・販売部品の色や仕様が今までご使用いただいていたものと異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。
○ご使用開始後、5年間を経過した製品については、ご使用を中止してください。

SGマークの被害者救済制度

SGマークが表示されたベビーカーを、消費者の皆さまが正常に使用していたとき、製品の欠陥により万一事故が発生し、お子様が損害を被った場合は、「製品安全協会」がその損害を賠償いたします。
ただし、お買い上げ日より4年以内です。

●賠償についてのご注意

- 認定したベビーカーそのものが故障したとしても、その品質について保証するというものではありません。
- 賠償金は製品安全協会がそれぞれ実情をよく調査して、実損を補填する妥当な額をお支払いすることになります。

●賠償金の請求について

損害を被った消費者（赤ちゃんなどの場合は保護者でもよい）が賠償金を請求するときは、別欄の項目を事故が発生した日から60日以内に下記の協会または、協会が指定する所に届けてください。

財団法人　製品安全協会
〒110-0012　東京都台東区竜泉2−20−2　ミサワホームズ三ノ輪　2F
TEL　03（5808）3303

●事故賠償に必要な項目

①事故の原因となったベビーカーの現品
　イ）製品の名称、SGマーク番号　ロ）製品の購入先、購入年月日
②事故発生の状況
　イ）事故発生年月日　ロ）事故発生場所　ハ）事故発生状況
③被害の状況
　イ）被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所
　ロ）被害の状況と程度（医師の証明書）

保証について 保証は日本国内においてのみ有効です

ご使用中に万一、故障が発生した場合には、現品に保証書を添えて、
お買い上げの販売店またはピジョン（株）修理センターへ修理をご依頼ください。

保　証　書

保証規定

1．有効保証期間は[お買い上げ後1年間]です。
2．製造中止後の製品は部品在庫がなくなった場合、修理出来ないこともあります。
3．一度ご使用になった製品は、原則としてお取替えすることはできません。
4．保証期間内に取扱説明書に基づく正常な使用方法において、万一故障した場合には
　無償修理を行います、お客様の誤使用などによる故障においては有償修理となります。
5．保証期間内であっても下記の項目に該当するものは有償修理となります。
　A、プラスチック部品の自然劣化による変退色。
　B、アルミフレームの自然劣化。（塗装、メッキはがれ）
　C、お客様の誤使用・保管不備・手入れ不足・改造や不当な修理による故障。
　D、駆動部・タイヤの自然消耗。
　E、縫製品のやぶれ・すり切れ・ほつれなど。
　F、火災・地震・水害・落雷などの天災地変などの不可抗力、事故などによる故障。
　G、故障の原因が本製品以外に起因する場合。
　H、一般のお客様の使用以外で、業務用などにご使用され故障した場合。
　I、保証書の必要記入項目に不備がある場合、字句を書き換えられた場合。
　J、本書のご提示がない場合。
6．有償修理時に要する発送費、諸経費はお客様のご負担となります。
7．保証書は再発行いたしません。（大切に保管してください）
8．本書は日本国内においてのみ有効です。海外からの修理サービスは致しかねます。

○お買い上げ後、ただちに下の欄に必要項目を記入してください。保証は日本国内においてのみ有効です。

品　名	06211 ピジョンSmile	シリアルNo.（後ステー上側に貼付のシールに記載）
保証期間　お買い上げ日より1年間　お買い上げ日　　年　　月　　日		
お客様	お名前 ご住所　〒 電話　　（　　）	
販売店	店名 住所　〒 電話　　（　　）	

○この保証書は本書に明示した期間、条件の下において無償修理をお約束するものです。従いまして、
この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

MEMO

MEMO

MEMO

お願い
製品は品質向上のため、予告なく仕様変更する場合があります。ご了承ください。

○製品の各種お問い合わせ先

ピジョン株式会社　お客様相談室
〒103-8480　東京都中央区日本橋久松町4-4
TEL 03 (5645) 1235　　受付時間　9時～17時 (土・日・祝日を除く)

○製品の修理、部品の購入などに関するお問い合わせ

ピジョン株式会社　修理センター
〒300-0315　茨城県稲敷郡阿見町大字香澄の里36-3　筑波南第一工業団地
TEL 029 (889) 5707　　受付時間　9時～12時、13時～16時30分 (土・日・祝日を除く)